

学校名	東京都立大島高等学校
授業者	金子 雄

1. 単元計画

地域資源活用の意義と役割について、地域資源を活用した実践的な学びを通じて理解させる

1-1. 単元名

地域資源活用の実際

1-2. 学年

3 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

農業「グリーンライフ」 ※新学習指導要領では「地域資源活用」

1-4. 単元の概要

単元名「地域資源活用の実際」

農業科・科目「グリーンライフ」では、新カリキュラムにおける後継科目「地域資源活用」への移行を見据え、生徒の主体的・対話的で深い学びの充実のために、プロジェクト学習の手法を用い、専門事業者との連携のもと、地域資源を活用した商品開発研究を実施する。

栽培を通じて地域資源の価値を認識させ、生産者としての責任感を身に付けさせる。生産した地域資源をどのように加工・流通させるか考える生きた学びとする。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- ・身近な事例を通して地域資源の活用や地域振興について理解させる
- ・科学的・創造的なプロジェクト学習を通じて、企業や六次産業化に関わる地域資源活用の実践力を身に付けさせる。
- ・国内外の地域資源活用に関する取り組みについて取り上げ、生徒自らが身近な地域資源を理解し、その活用を実践できるようする。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- ・地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

1-7. 単元の展開（全 12 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1・2	地域資源の栽培管理に関する実験・実習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 島トウガラシの収穫 ・ 収穫後の計量と調整 ・ 圃場の整備 	圃場における収穫実習/実習態度 農場棟における調整実習/実習態度 圃場の整備/実習態度
3・4	地域資源活用に関するプロジェクト学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源を活用した商品事例紹介 ・ 持続可能で創造的な農業と地域振興 ・ 島トウガラシの商品開発に向けた地域調査など情報収集 	地域ブランド商品の紹介/関心・意欲・態度 地域特産品認証品（Eマーク）について/知識・理解 海洋資源との連携について/興味・関心
5・6	地域資源活用に関するプロジェクト学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師による講演 ・ 商品化に向けたブレインストーミング ・ KJ法によるアイデアの集約 	外部人材による講演/関心・意欲・態度 言語活動の充実/興味・関心 商品の決定/知識・理解
7・8	連携・交流を通じた実践的な学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生製品の納入 ・ 工場及び販売所の見学、職場体験 ・ OEM開発。ODM開発について 	生製品についての説明/知識・理解 連携先における見学・体験実習/関心・意欲・態度 商品開発の手法について/知識・理解
9・10	地域資源活用に関するプロジェクト学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源の販促とブランドづくり ・ 商品ラベルの作成と販売準備 ・ 安全管理と活動の評価方法について 	販促についての説明/知識・理解 商品ラベルの作成/関心・意欲・態度 PDCAサイクル/知識・理解
11・12	地域資源活用に関するプロジェクト学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 商品販売の実践 ・ アンケートの実施 ・ 振り返りと評価の実施 	販売の実践/関心・意欲・態度 商品についての情報/知識・理解 まとめと発表/知識・理解

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

自分たちの手で開発した商品を実際に販売することで、商品知識や地域資源を活用した商品開発についての理解を深め、生産技術習得意欲と学習意欲の向上につなげる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
導入 ・あいさつ、点呼、実習内容の確認 / 目標と実施方法の確認 ・販売会場の準備 / テント、テーブル、椅子などの設置 ・商品の搬入・陳列 / お客様の気持ちを考えて商品を陳列	実習内容の確認 / 知識・理解 動線を考えた配置 / 関心・意欲・態度 置き方、見せ方の指導 / 関心・意欲・態度
展開 ・呼び込み / 声出し、笑顔、ポイントの確認 ・商品説明 / 地域資源を活用した商品の PR ・目標の確認、達成のための改善行動 / 状況に応じて売り方を変えてみる	模範を示し自信をもたせる / 実習態度 説明を聞いて補足、改善 / 実習態度 状況を見て考えさせる / 実習態度
まとめ ・販売数、残数の確認 / 過不足の確認 ・アンケートの回収 / 来訪者アンケートの確認 ・振り返りと評価の実施 / 生徒の反省とアンケート結果の照合	差異がないことの大切さ / 知識・理解 真摯に受け止めさせる / 関心・意欲・態度 結果から考察させる / 興味・関心

3. 今回の活動の自己評価

今年度は、生徒の発案を元に遠忠食品(株)との商品開発研究として、島トウガラシ入り海苔の佃煮を生産した。本校で栽培した伊豆大島の地域資源の島トウガラシ（青トウ）を出荷し、完成した商品を地域の生産品販売所で販売実習をさせてもらった。

本商品は、本单元内で栽培し、収穫した青トウガラシ 2 キロを冷凍で連携事業者に送付し、これを原料とし、東京湾の生海苔を使用した食品添加物、化学調味料不使用の商品を製造した。同事業者は、東京都の地域特産品認証食品（E マーク認証）「江戸前でい！」シリーズの佃煮が知られており、これをベースとした島唐辛子入り海苔佃煮が誕生した。これは、令和元年9月の台風15号被災地（伊豆大島、南房総）の食材を用いることで災害復興の意味ももたせることができた。

栽培を通じて地域資源の価値を認識させ、生産者としての責任感を身に付けさせることができた。さらに、生産した地域資源をどのように加工・流通させるか考えることでより生きた学びにすることができた。

なお、遠忠食品(株)は2019年3月の大地の力コンペで御縁での連携であり、発表など学習活動を通じた外への波及効果は、生徒の生産技術習得意欲と学習意欲の向上につながっている。

現在、農業の六次産業化が注目されており、各地で地域の特色を活かした取り組みがなされている。本校の商品開発研究はモデルケースになると思われ、伊豆大島の農業や観光業の活性化につながる可能性のひとつを見出すことができたと考えている。

4. 今後の課題

今回は島トウガラシをベースにしたが、これは他の野菜や果樹、畜産物などさまざまな形の応用が考えられるので、年ごとに生徒の興味関心に応じた教材で取り組んでいけると確信できた。

いずれの地域資源活用であっても、栽培や飼育技術の基礎基本なくしては良質な商品開発は望むべくもないので、本单元を履修する3学年になる前（1学年、2学年時に）しっかりと基礎的な知識と技術を定着させることが重要になってくると考えている。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

「海洋と人類の共生」という海洋教育の理念の実現に資する実践となるよう、「海」という視点からあらためて单元開発をおこない、地域資源の島トウガラシと東京湾の海苔とのコラボを成功させた。（大島も東京なので、メイドイン東京という意義はあった。）地域に規模の大きい地場産業の工場がなかったので、今回は内地の事業者と提携したが、今後は水産物、塩、海水なども地元のものを活用し、できれば地域の事業者と提携した商品開発も模索していきたい。

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。